



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

SUWA

諏訪の 景気動向

製造業 p2

約50%の企業が賃金引上げ

商業 p4

戻りつつある客足

観光・サービス業 p5

観光客の動き活発化

建設業 p6

22年度新設住宅着工増

雇用 p8

製造業の新規求人数減少

2023
5月

(2023年4月末D・I調査)

CONTENTS

概況	1
製造業	2
製造業 受注状況	3
商業	4
観光・サービス業	5
建設業	6
収益性状況	7
雇用状況	8
経営上の課題	8
諏訪地方主要経済指標	8
2023年4月の状況	9
●賃金（ベア等）	9
●材料電気等コスト	9
●コロナの影響	10
●労働力（パート含む）	10
●自社の業況	11
●収益性	11
回答全社：業況判断DIの推移	12
調査概要	12
コラム「景気回復に明るさ」	13

お天気マーク（調査月から見た状況）



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上好転したか、3ヵ月前に好転して横ばいの時。



回答全社は好転しているものの、業種によって悪化企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が0～9ポイントの好転または悪化か、3ヵ月前も同様に横ばいの時。



回答全社が悪化しているものの、業種によって好転企業もある時。



3ヵ月前（観光・サービス業は前年同期）に比べ、回答全社が10ポイント以上悪化したか、3ヵ月前に悪化して横ばいの時。

概況

2023年4月アンケート調査および 企業訪問ヒアリング調査による取りまとめ

諏訪地方182社のご協力で行った2023年4月の「景気動向調査 (DI調査)」は、回答全社の「3ヵ月前」と比べた業況判断DIが△15.4で、**前回調査時(2023年1月末、以下同)の△30.4から、15.0ポイント改善した**。「3ヵ月前」と比べた製造業の業況判断DIは△28.6で、前回の△36.9からやや改善した。また、非製造業(商業、観光・サービス業、建設業)の同DIは11.7で、前回の△18.8から改善した。「3ヵ月後」の業況予想DIは、製造業が前回の△8.7から△2.5へ改善し、非製造業は11.6で前回の1.5から改善し、回答全社では2.2(前回△5.0)となった。

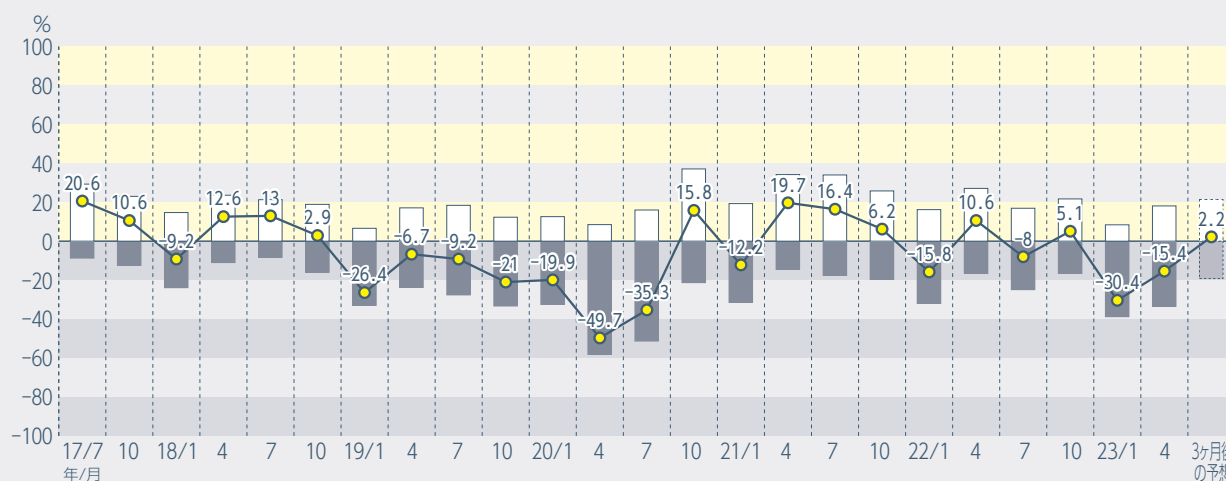
4月時点の総体的な改善傾向は、新型コロナウイ

ルスの感染法上の分類が5類へ移行される直前の**観光・サービス業の伸びが大きい**。冬から春への季節要因に加え、感染状況の区切りによる解放感から人流が一気に増加した。製造業はマイナス水準の推移ながら、やや持ち直したが、依然、大手企業の動きに左右される不安定な受注状況が続いている。一方、全国的な課題となっている賃上げは、物価上昇に見合っているかは別に、回答全社では3ヵ月前に比べ、**46.2%が何らかの形で賃上げ**をしている。収益が圧迫されている状況下で中小企業の賃上げは困難といわれる中で、人材確保や定着に向けた企業努力がみられる。

●産業別業況表

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全	体	182	18.1	48.4	33.5	-15.4	182	17.6	40.7	41.8	-24.2	182	21.4	59.3	19.2	2.2
製	造 業	122	14.8	41.8	43.4	-28.6	122	17.2	29.5	53.3	-36.1	122	20.5	56.6	23.0	-2.5
非	製 造 業	60	25.0	61.7	13.3	11.7	60	18.3	63.3	18.3	0.0	60	23.3	65.0	11.7	11.6
商	業	28	28.6	53.6	17.9	10.7	28	21.4	64.3	14.3	7.1	28	32.1	53.6	14.3	17.8
建	設 業	20	15.0	75.0	10.0	5.0	20	15.0	65.0	20.0	-5.0	20	10.0	80.0	10.0	0.0
観	光・サービス業	12	33.3	58.3	8.3	25.0	12	16.7	58.3	25.0	-8.3	12	25.0	66.7	8.3	16.7

●回答全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移





3ヵ月前との比較

新型コロナウイルスの影響は、「多大」とする企業が前回の8.8%から4.9%に減少し、「なし」とする企業が前回の27.2%から40.2%に増加した。一方、**原材料やエネルギー等コスト**は64.8%の企業が上昇し、大きな課題となっている。その中で、賃金は49.2%の企業が何らかの形で引き上げている。

3ヵ月後の予想

新型コロナウイルスの影響は収束傾向が続く一方で、原材料やエネルギーコストは、「不変」が50.0%、「上昇」が48.4%で、高止まりやさらに上昇するとみる企業が多い。ただ、前回より好転予想の企業が増え、**業況は総体的に緩やかながら改善に向かっている**。

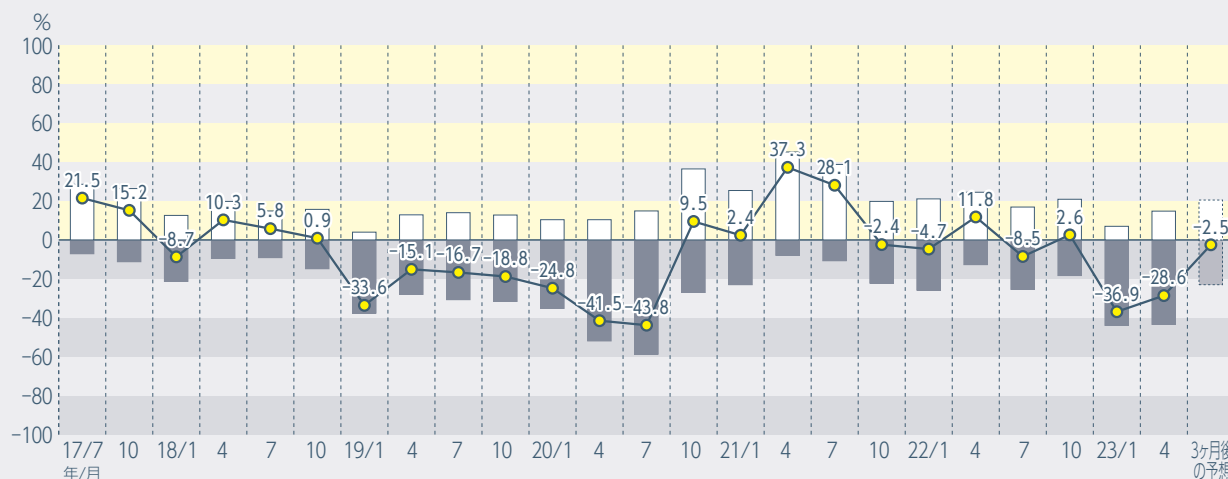
総体的な状況

半導体関連や自動車関連業界は依然、大手メーカーの在庫調整などによる生産調整の影響があり、不安定な部材供給の状態もまだ解消されず、先行き不透明感がある。ただ、正常化にはまだ時間がかかるとみられるものの、**徐々に半導体不足や部品調達**は回復しつつあり、大手メーカーの制限が緩み、好転に向かう動きもある。EVとガソリン車の共通部品などは回復基調が顕著になり、一部では自社の受注キャパシティを超える要請も出始めている。また、設備投資は不安定な景況から投資意欲の一服感もあるが、**人材不足の課題を解決するための自動化、省力化**を進める企業は多い。原材料やエネルギー価格の高騰に加え、人件費の上昇も収益圧迫要因となる企業が増えている。

企業のひとこと

- 製造業の下請けは、おおむね落ち込み、どこからよくなるか分からない。政府は実情を理解していないと思う（専用機械製造業）。
- 正社員の中途退職、中途採用の動きが激しい。世間の賃上げの動きの中で、若干でも給与額が高い企業に転職を考える社員の動きが目立つ（金属製品製造業）。
- ベースアップを検討したが、現状維持とした。今後も同業他社の状況を見て検討する（電気機械製造業）。
- 事前に内示があった受注数量を下回ることがしばしばで、人員など生産体制面で困る（一般機械製造業）。
- アフターコロナ、半導体不足の解消など景気回復への要素は多いはずだが、実態はその真逆。新分野への展開は必要だが、技術力は普遍的なものとして継承していく必要がある（輸送用機械製造業）。
- 自動車関連の減少は、世界的なEV化への動きに対し、国内メーカーが方向性を決めかねている、または態勢を構築している状況が続いていることが大きな要因ではないか（輸送用機械製造業）。

●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



製造業 受注状況

3ヵ月前との比較

悪化企業が上回る水面下ながら、総体的には**前回より改善傾向**となった。回答全社の受注状況DIは△27.1で、前回調査時の△43.0から悪化幅が減少した。規模別では、「1～29人企業」は△29.7で前回の△39.3からやや改善し、「30～99人企業」も△22.8で△41.8から改善した。「100人以上企業」は△28.6で△60.0から改善した。業種別（主要5業種）では、「金属製品」が△57.5から△26.5、「一般機械」は△40.9から△16.2、「電気機械」は△45.0から△35.0、「輸送用機械」が△46.2から△36.4へ改善したが、「精密機械」は△8.3から△53.8へ大幅悪化した。

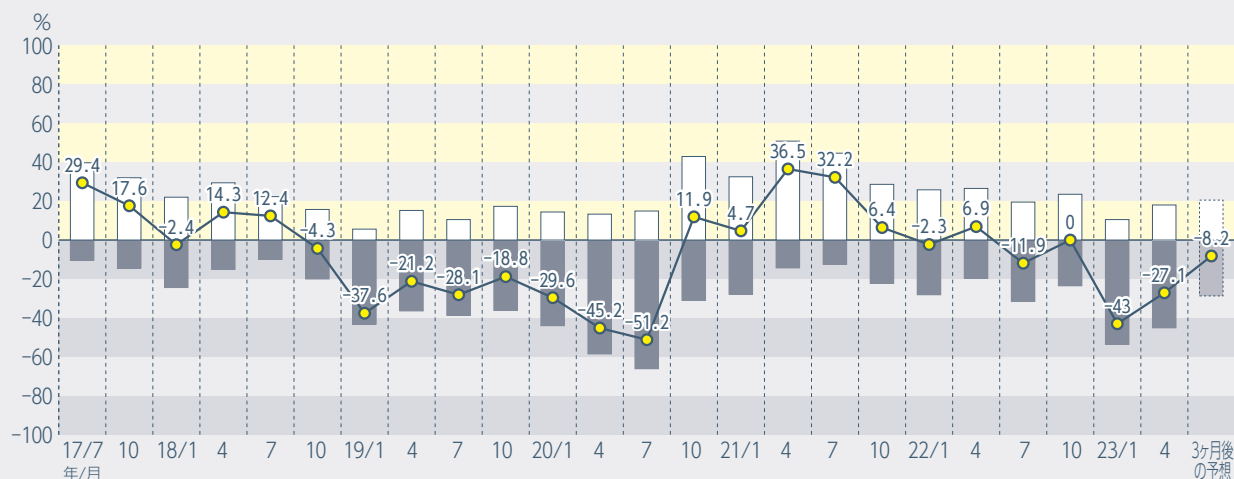
3ヵ月後の予想

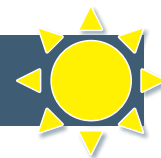
先行き不透明で、回復への足取りが重い。回答全社の受注予想DIは△8.2で、前回の△5.3からやや悪化した。規模別では「1～29人企業」が△7.8で前回の△7.2とほぼ同様で、「30～99人企業」は△9.1で2.3から悪化し、マイナス水準となった。一方、「100人以上企業」は△7.2で△20.0から改善した。業種別（主要5業種）では、「金属製品」が前回の6.1から△11.7、「一般機械」は△13.6から△16.1、「電気機械」は△15.0から△20.0、「輸送用機械」は△7.7から△9.1へそれぞれ悪化したが、「精密機械」は△8.4、から△7.7へわずかに改善した。

●業種別・規模別受注状況表

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	D I	回答企業	増加	不変	減少	D I	回答企業	増加	不変	減少	D I
製 造 業		122	18.0	36.9	45.1	-27.1	122	18.9	26.2	54.9	-36.0	122	20.5	50.8	28.7	-8.2
規 模	1～29人	64	15.6	39.1	45.3	-29.7	64	20.3	31.3	48.4	-28.1	64	21.9	48.4	29.7	-7.8
	30～99人	44	22.7	31.8	45.5	-22.8	44	22.7	18.2	59.1	-36.4	44	18.2	54.5	27.3	-9.1
	100人～	14	14.3	42.9	42.9	-28.6	14	0.0	28.6	71.4	-71.4	14	21.4	50.0	28.6	-7.2
中 分 類	金属製品製造業	34	23.5	26.5	50.0	-26.5	34	11.8	26.5	61.8	-50.0	34	11.8	64.7	23.5	-11.7
	一般機械製造業	31	16.1	51.6	32.3	-16.2	31	6.5	32.3	61.3	-54.8	31	12.9	58.1	29.0	-16.1
	電気機械器具製造業	20	10.0	45.0	45.0	-35.0	20	35.0	25.0	40.0	-5.0	20	20.0	40.0	40.0	-20.0
	輸送用機械器具製造業	11	9.1	45.5	45.5	-36.4	11	0.0	36.4	63.6	-63.6	11	27.3	36.4	36.4	-9.1
	精密機械器具製造業	13	7.7	30.8	61.5	-53.8	13	23.1	7.7	69.2	-46.1	13	30.8	30.8	38.5	-7.7

●製造業：「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移





3ヵ月前との比較

業況判断DIは10.7で、前回の△28.6から改善した。新型コロナウイルスの影響がないとする企業は前回の21.4%から32.1%に増え、**来店客数DI**は、前回の△25.0から7.1へ改善し**プラス水準**となった。多品目の値上げで、客単価DIも前回の14.3から32.1へ伸びたが、**消費者の低価格志向**が強まっている。

3ヵ月後の予想

業況予想DIは前回の7.1から17.8へ伸び、来店客数DIも前回の△7.1から14.3へ伸びている。新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類へ移行することから、飲食店などで**客足の伸びが期待**されている。ただ、人手不足による機会損失も懸念されている。

■スーパー

物価高騰で、プライベートブランドなどの低価格商品の売れ行きが伸びた。天候がよく、バーベキュー関係の食材などの売れ行きが好調だった。

■自動車

諏訪地方の4月の車庫証明件数は856件で、前年同月比103件、13.7%増加した。

■イベントホール

「〇年ぶり開催」というイベントの話が出始めている。宴会予約、問い合わせが増えつつある。

■飲食店

コロナ禍を通じ、夜間の営業は予約を中心とした体制に移行する動きがある。鳥インフルの影響で卵の入手が難しくなっている。

■タイヤショップ

夏タイヤの値上げ前の駆け込みがあったが、今後の消費者の購買意欲の低下が懸念される。

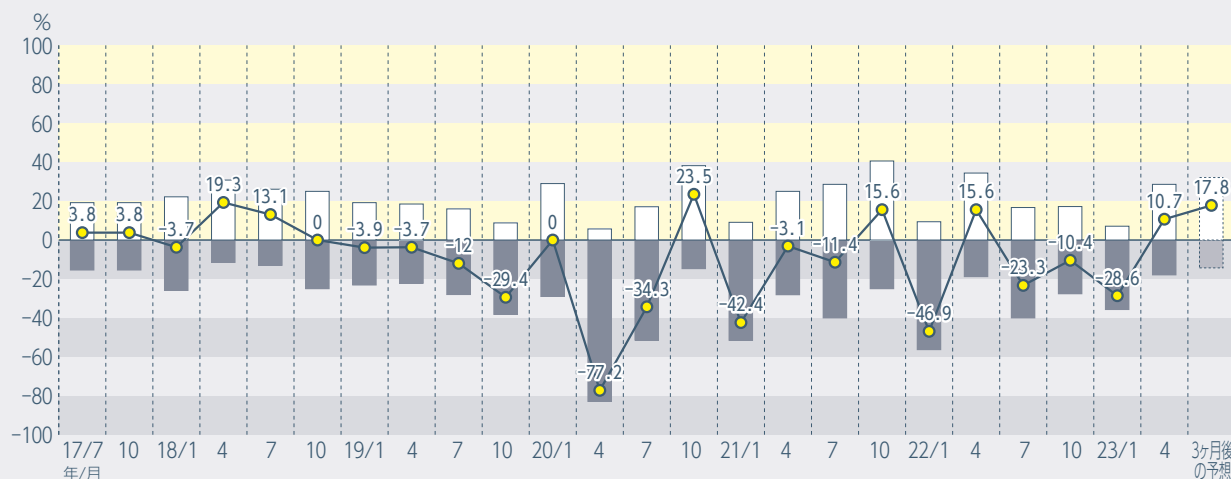
■家電

例年より気温の上昇が早く扇風機やエアコンが好調で、黄砂や花粉対策の空気清浄機も好調。

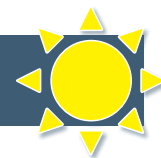
企業のひとこと

- アフターコロナの動きになり、好天で外出機会が増えたことで、帽子、靴、キャリーバックなどの衣料品や行楽用品の売上が増加した（大型小売店）。
- コロナが落ち着き徐々に業況回復傾向になっているが、スタッフが確保できず休業した。限られた人材で店を回しているため、空席があっても入店を断ることが多い（飲食店）。
- 節約志向が高まっており、100円均一商品を増やしたところ、売れ行き好調だった。来店客向けコロナ対策グッズは徐々に撤去していく方針（コンビニ）。
- 納車サイクルの長期化で、販売店は資金繰りで多忙な状況が続く。軽自動車を中心に消費者ニーズは引き続き旺盛で、納車サイクルが正常化すれば安定する（自動車販売）。

●商業全社：「3ヵ月前」と比した業況判断DIの推移



観光・サービス業



前年同期との比較

前年同月は御柱祭や各種割引プランが好評だった時期のため、業況判断DIは△8.3とマイナス水準となった。しかし、感染状況が落ち着き、全国旅行支援の延長などで観光客の動きは、明らかに活発化している。インバウンドや団体客も予想以上に増加した。

3ヵ月後の予想

業況予想DIは16.7で、前回の7.2から改善している。宿泊客数DIは50.0で、多くの企業が好転予想をしている。新型コロナの影響は、「多大」とする企業がなくなり、「なし」が58.3%となった。全国旅行支援は6月末まで延長されたが、諏訪地域では枠をほとんど消化している。

■上諏訪温泉

東京・関東・海外からの宿泊者が増え、貸し切りバス利用の15人～29人の団体旅行者も増加している。8月15日の花火大会当日やサマーナイト花火(分散花火)開催時の宿泊の問い合わせが多い。人手不足は継続的課題でGW明けに休館日を設けている施設もある。

■下諏訪温泉

大規模な宴会需要等の予約は少ないが、宿泊はコロナ前に戻りつつある。

■蓼科・白樺湖・富士見高原

蓼科湖、白樺湖、女神湖の魅力を一体的に発信する「レイクリゾート構想」の拠点の1つ「蓼科BASE」が竣工し、今後の広域観光への波及効果が期待されている。霧ヶ峰高原で発生した大規模林野火災の影響は少ないとみられている。

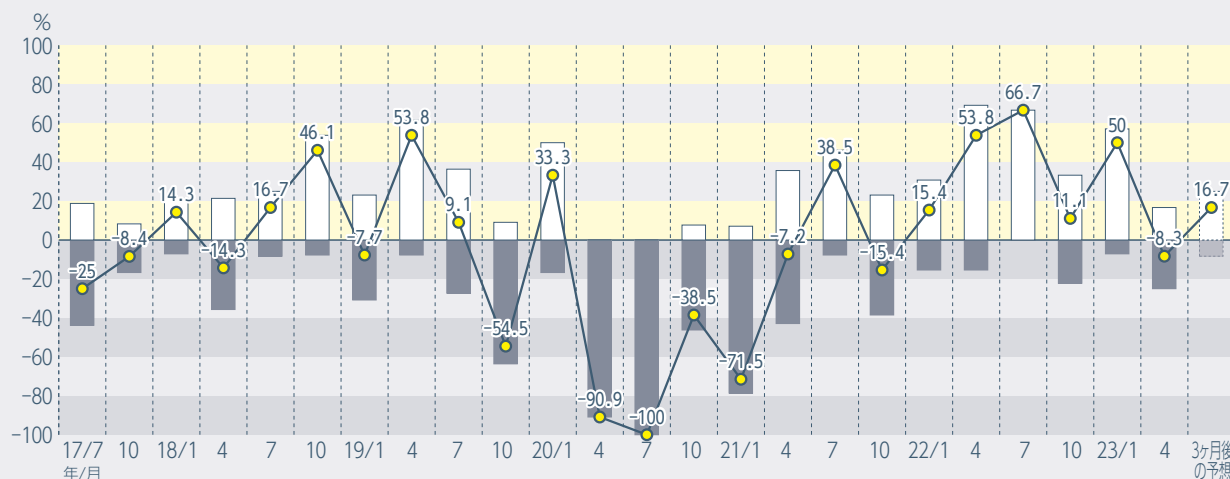
■諏訪大社

上社・下社合わせた4月の参拝者数は、約6万4千人だった。前年同月比約7千人、9.7%減少した。

企業のひとこと

- 昨年は全国旅行支援など切れ目がない集客支援策があり、感染状況が落ち着くと客足は戻った。しかし、今期は旅行支援策が終了に向かい、食材や燃料価格の高騰などマイナス要因だけが際立っている。収益性は改善されてきたが、労働力の確保と賃上げ、物価上昇と宿泊料金の値上げなど、課題が山積み先行きに明るい材料がない(ホテル)。
- インバウンドはコロナ以前を超えた。コロナ前は月に2、3人程度だったが、4月だけで58人の外国人宿泊者があった。ほとんどが連泊して滞在し、県内の観光地を回っていた(旅館)。
- 霧ヶ峰高原の山火事当日は満室で、夕食を提供する時間に避難指示が出た。火災現場から比較的遠い場所のため、宿泊客は避難せず待機したが、酒の提供は控えた。キャンセルは少数で済んだ(ホテル)。

●観光・サービス業全社：「前年同期」と比した業況判断DIの推移





3ヵ月前との比較

業況判断DIは好転が15.0%、悪化が10.0%の5.0となり、前回の9.1から悪化した。受注状況DIは5.0で前回の△4.6から改善した。受注はあるものの、人手不足や原材料高は続き、さらに値上げとなる設備機器もあり、**収益面の懸念**がある。

3ヵ月後の予想

好転、悪化予想とも10.0%で業況判断予想DIは、0.0となった。労働力予想DIは横ばいが最も多いが、「増加」はなく、△5.0となっている。**人手不足は今後も続く**見通しで、現場を取り仕切る代理人や作業員の確保が困難なことから、入札に参加できないケースを想定する企業もある。

3月の新設住宅着工戸数

諏訪地方の合計は52戸で、前年同月比4戸増加(8.3%)した。2022年度の累計着工戸数は953戸で、前年同期比48戸増加(5.3%)した。持ち家が105戸減り、貸家が143戸増加した。長野県全体の3月は695戸で、前年同月比13.5%増加した。

4月の諏訪地方市町村からの受注状況

建築工事2件92百万円、土木・水道工事31件387百万円、その他工事9件70百万円の合計42件549百万円だった。前年同月比では、件数は11件、

契約は173百万円減少(△24.0%)した。

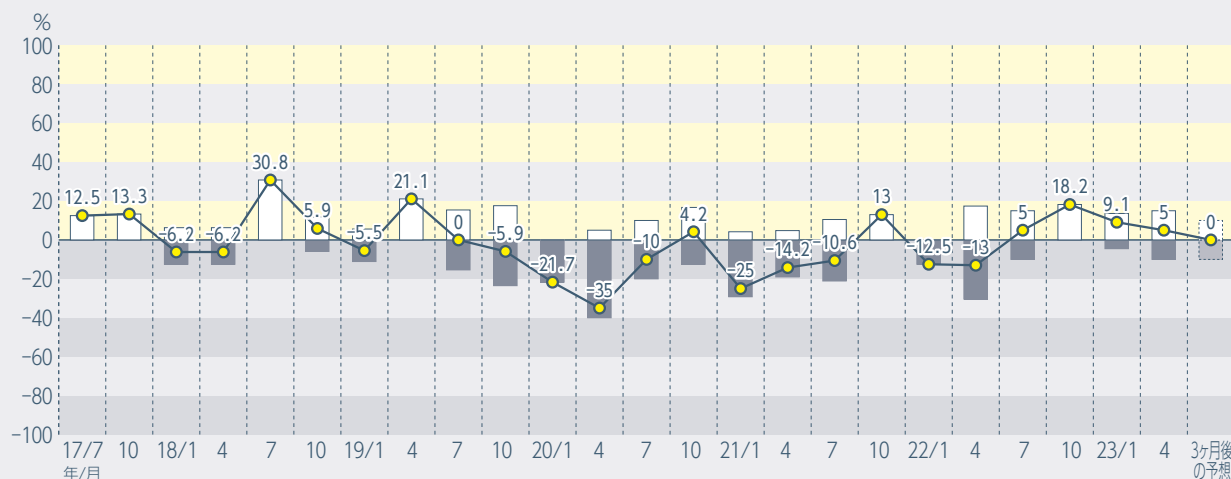
4月の地元企業が受注した国県関係の公共工事

合計5件243百万円で、前年同期比で件数は1件増加し、契約金額は89百万円増加(57.9%)した。年度初めは毎年工事数が少なく、4月の実績は2022年度補正予算による工事だった。今年度の発注工事は6月ごろから始まる見込み。原材料高騰で、4月は生コンが10%以上値上がりした。今後、砂利やセメントも上がる見込み。

企業のひとこと

- 仕掛中の現場多く、受注は確保できている状況。資材の高騰や働き方改革による労働制限があり、工事は遅れ気味になっている。
- 新型コロナウイルスが5類になったが、これからは医療費など個人で負担しなければならないものがあるため、具合が悪くても医者に行かなかったり、我慢する人も出てくるのが考えられ予防策が難しい。
- 4月は生コンが値上がりした。個人住宅への影響は大きく、住宅の坪単価が上がり住宅メーカーが厳しくなるのでは。
- 新卒者は現状皆無で、人手不足の状況は変わっていない。お金をかけて中途採用者の募集を行っているが、思うような人材が確保できない。

建設業全社：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移



収益性状況

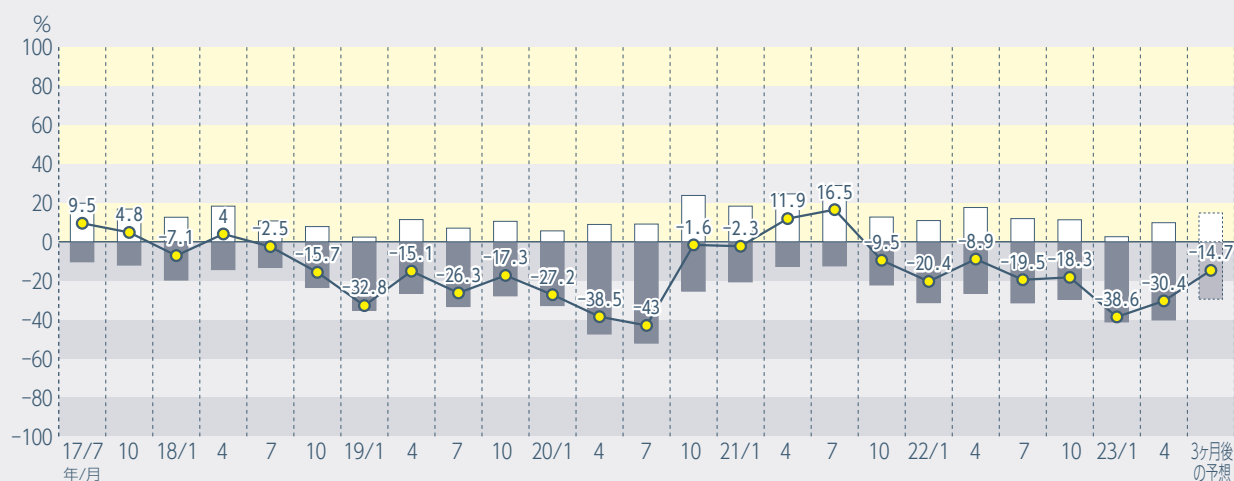
3ヵ月前との比較

回答全社の収益性判断DIは「好転」企業12.1%、「悪化」企業32.4%の△20.3で、前回調査時の△32.6からやや改善した。製造業は△30.4で前回の△38.6からやや改善した。原材料高とエネルギーコスト上昇が収益を圧迫し、**価格転嫁が困難な構造**は変わっていない。非製造業は、「好転」「悪化」とも16.7%の0.0で、前回の△21.9からは改善した。

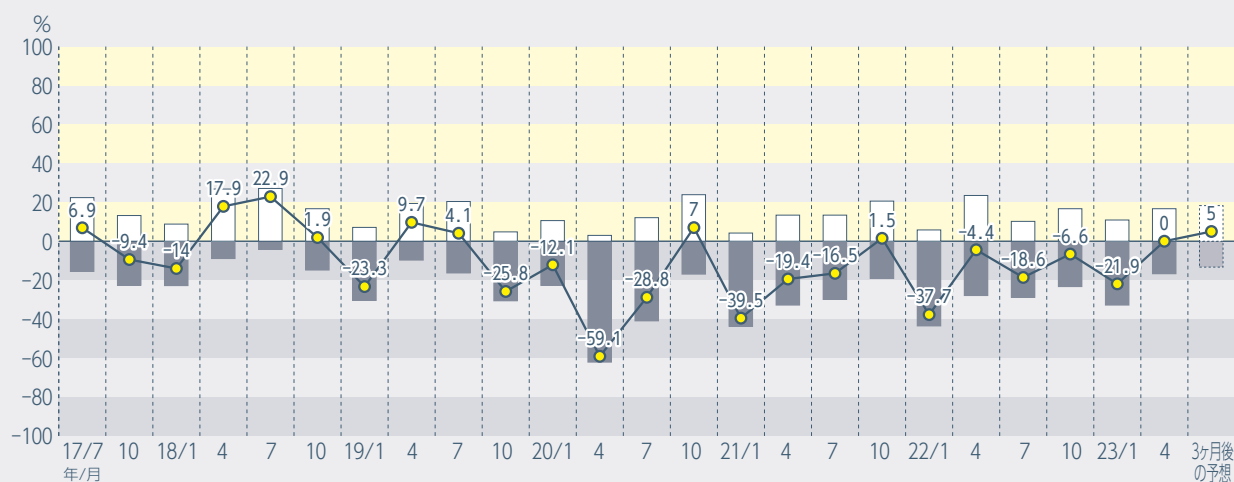
3ヵ月後の予想

回答全社の収益性予想DIは、△8.3で、前回の△7.3からやや悪化した。製造業は△14.7で、悪化予想の企業が上回り、前回の△12.3から悪化した。非製造業は5.0で前回の1.6から改善した。好転と悪化予想が拮抗する商業や建設業に比べて、**観光・サービス業の33.4が大きい**。ただ、人件費とエネルギーコストが増加しており、収益環境は依然厳しさが予想される。

●製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



●非製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI



雇用状況

2023年3月の諏訪地方の有効求人倍率は、前年同月を0.11ポイント下回り、前月を0.02ポイント下回る1.47倍だった。3ヵ月連続で前年同月を下回った。県内は1.51倍、全国は1.32倍。長野県の有効求人倍率の全国順位は9位で、30ヵ月連続で全国平均を上回っている。全国の完全失業率は前月比0.2ポイント上昇の2.8%だった。諏訪地方は、新規求人数（全数）が1,799人で前年同月比132人増加（7.9%）し、3ヵ月ぶりに前年同月を上回った。一方、新規求職者数は758人で、前年同月比9人減少（△1.2%）した。

産業別の前年同月比の新規求人数は、飲食店・宿泊業が40.0%、建設業が11.4%、運輸・郵便業が30.2%、医療・福祉業9.6%と増加し、製造業が△8.3%、卸売業・小売業は△9.7%と減少した。製造業の新規求人数は3ヵ月連続で前年同月を下回った。1件10人以上の人員整理はなかった。

2022年度の全国の年間有効求人倍率は1.31倍で、2年連続上昇した。また、年間の完全失業率は2.6%で、2年連続低下した。

経営上の課題（3つまでの複数回答）

経営上の課題として①製造業は労働力確保と売り上げ減少②商業も労働力確保と売り上げ減少③建設業は労働力確保と人件費④観光・サービス業は労働力確保と資金繰りだった。

多くの業種で労働力不足が深刻化している。「目

先の給与金額が理由で、人の出入りが激しい」とする企業もあり、労働力の確保や定着のために賃上げをした企業もあるが、人件費を中心とした固定費の増加による収益圧迫が課題の1つとなっている。

経営上の課題	合 計	製 造 業	商 業	建 設 業	観光・サービス業
売 上 減 少	91	70	12	6	3
単 価 引 下 げ	7	4	2	0	1
競 争 激 化	31	14	11	4	2
資 金 繰 り	47	30	8	5	4
人 件 費	52	36	6	7	3
労 働 力 確 保	96	56	15	17	8

諏訪地方主要経済指標

		実 数	前年同期比
有効求人倍率【3月】（諏訪公共職業安定所管内）		1.47倍	△0.11ポイント
国県公共工事【4月】 （税抜・地元企業受注分）	件 数	5件	1件
	金 額	243百万円	89百万円
6市町村公共工事受注【4月】 （税抜・業務委託除く）	件 数	42件	△11件
	金 額	549百万円	△173百万円
車庫証明取扱件数【4月】（諏訪地方合計）		856件	13.7%
新設住宅着工戸数【2022年4月～2023年3月】（諏訪管内）		953戸	5.3%

2023年4月の状況 (企業%) ●賃金 (ベア等) ●材料電気等コスト

●賃金 (ベア等)

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下
全 体		182	46.2	51.6	2.2	182	58.2	39.6	2.2	181	30.4	66.9	2.8
製 造 業		122	49.2	48.4	2.5	122	62.3	34.4	3.3	121	32.2	63.6	4.1
規 模	1～29人	64	46.9	51.6	1.6	64	57.8	39.1	3.1	64	29.7	67.2	3.1
	30～99人	44	50.0	45.5	4.5	44	68.2	27.3	4.5	43	30.2	65.1	4.7
	100人～	14	57.1	42.9	0.0	14	64.3	35.7	0.0	14	50.0	42.9	7.1
中 分 類	金属製品 製造業	34	47.1	52.9	0.0	34	58.8	41.2	0.0	34	38.2	61.8	0.0
	一般機械 製造業	31	45.2	45.2	9.7	31	61.3	29.0	9.7	31	25.8	64.5	9.7
	電気機械器具 製造業	20	40.0	60.0	0.0	20	65.0	35.0	0.0	19	36.8	57.9	5.3
	輸送用機械 器具製造業	11	54.5	45.5	0.0	11	54.5	45.5	0.0	11	36.4	63.6	0.0
	精密機械器具 製造業	13	46.2	53.8	0.0	13	61.5	30.8	7.7	13	30.8	61.5	7.7
非 製 造 業		60	40.0	58.3	1.7	60	50.0	50.0	0.0	60	26.7	73.3	0.0
商 業		28	39.3	57.1	3.6	28	39.3	60.7	0.0	28	32.1	67.9	0.0
建 設 業		20	25.0	75.0	0.0	20	50.0	50.0	0.0	20	15.0	85.0	0.0
観光・サービス業		12	66.7	33.3	0.0	12	75.0	25.0	0.0	12	33.3	66.7	0.0

●材料電気等コスト

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下	回答 企業数	上昇	不変	低下
全 体		182	65.9	31.9	2.2	182	85.7	12.1	2.2	182	52.2	46.7	1.1
製 造 業		122	64.8	33.6	1.6	122	86.1	11.5	2.5	122	48.4	50.0	1.6
規 模	1～29人	64	65.6	34.4	0.0	64	84.4	14.1	1.6	64	48.4	50.0	1.6
	30～99人	44	63.6	34.1	2.3	44	88.6	9.1	2.3	44	47.7	50.0	2.3
	100人～	14	64.3	28.6	7.1	14	85.7	7.1	7.1	14	50.0	50.0	0.0
中 分 類	金属製品 製造業	34	70.6	29.4	0.0	34	91.2	8.8	0.0	34	52.9	47.1	0.0
	一般機械 製造業	31	64.5	32.3	3.2	31	80.6	12.9	6.5	31	45.2	48.4	6.5
	電気機械器具 製造業	20	50.0	50.0	0.0	20	100.0	0.0	0.0	20	55.0	45.0	0.0
	輸送用機械 器具製造業	11	72.7	27.3	0.0	11	90.9	9.1	0.0	11	54.5	45.5	0.0
	精密機械器具 製造業	13	61.5	30.8	7.7	13	61.5	30.8	7.7	13	30.8	69.2	0.0
非 製 造 業		60	68.3	28.3	3.3	60	85.0	13.3	1.7	60	60.0	40.0	0.0
商 業		28	78.6	14.3	7.1	28	89.3	10.7	0.0	28	64.3	35.7	0.0
建 設 業		20	55.0	45.0	0.0	20	85.0	15.0	0.0	20	55.0	45.0	0.0
観光・サービス業		12	66.7	33.3	0.0	12	75.0	16.7	8.3	12	58.3	41.7	0.0

2023年4月の状況 (企業%) ●コロナの影響 ●労働力 (パート含む)

●コロナの影響

		3ヵ月前と比べて				前年同期と比べて				3ヵ月後の予想			
		回答 企業数	多大	多少	なし	回答 企業数	多大	多少	なし	回答 企業数	多大	多少	なし
全 体		182	6.0	53.3	40.7	182	6.6	52.2	41.2	180	3.3	50.6	46.1
製 造 業		122	4.9	54.9	40.2	122	7.4	53.3	39.3	120	4.2	50.0	45.8
規 模	1～29人	64	4.7	59.4	35.9	64	6.3	57.8	35.9	63	4.8	54.0	41.3
	30～99人	44	4.5	54.5	40.9	44	9.1	52.3	38.6	43	2.3	51.2	46.5
	100人～	14	7.1	35.7	57.1	14	7.1	35.7	57.1	14	7.1	28.6	64.3
中 分 類	金属製品 製造業	34	8.8	44.1	47.1	34	8.8	44.1	47.1	34	8.8	44.1	47.1
	一般機械 製造業	31	0.0	64.5	35.5	31	6.5	67.7	25.8	30	0.0	60.0	40.0
	電気機械器具 製造業	20	5.0	45.0	50.0	20	5.0	50.0	45.0	19	5.3	42.1	52.6
	輸送用機械 器具製造業	11	9.1	63.6	27.3	11	9.1	63.6	27.3	11	0.0	63.6	36.4
	精密機械器具 製造業	13	0.0	61.5	38.5	13	7.7	53.8	38.5	13	0.0	53.8	46.2
非 製 造 業		60	8.3	50.0	41.7	60	5.0	50.0	45.0	60	1.7	51.7	46.7
商 業		28	7.1	60.7	32.1	28	3.6	60.7	35.7	28	3.6	60.7	35.7
建 設 業		20	5.0	40.0	55.0	20	5.0	40.0	55.0	20	0.0	45.0	55.0
観光・サービス業		12	16.7	41.7	41.7	12	8.3	41.7	50.0	12	0.0	41.7	58.3

●労働力 (パート含む)

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	増加	不変	減少	DI	回答 企業数	増加	不変	減少	DI	回答 企業数	増加	不変	減少	DI
全 体		182	16.5	69.8	13.7	2.8	182	22.0	57.1	20.9	1.1	182	11.5	78.6	9.9	1.6
製 造 業		122	14.8	71.3	13.9	0.9	122	22.1	55.7	22.1	0.0	122	9.0	81.1	9.8	-0.8
規 模	1～29人	64	12.5	75.0	12.5	0.0	64	21.9	62.5	15.6	6.3	64	7.8	82.8	9.4	-1.6
	30～99人	44	15.9	70.5	13.6	2.3	44	25.0	45.5	29.5	-4.5	44	11.4	81.8	6.8	4.6
	100人～	14	21.4	57.1	21.4	0.0	14	14.3	57.1	28.6	-14.3	14	7.1	71.4	21.4	-14.3
中 分 類	金属製品 製造業	34	11.8	79.4	8.8	3.0	34	23.5	67.6	8.8	14.7	34	11.8	82.4	5.9	5.9
	一般機械 製造業	31	16.1	67.7	16.1	0.0	31	16.1	45.2	38.7	-22.6	31	0.0	87.1	12.9	-12.9
	電気機械器具 製造業	20	30.0	55.0	15.0	15.0	20	40.0	45.0	15.0	25.0	20	15.0	70.0	15.0	0.0
	輸送用機械 器具製造業	11	9.1	81.8	9.1	0.0	11	18.2	54.5	27.3	-9.1	11	0.0	81.8	18.2	-18.2
	精密機械器具 製造業	13	7.7	76.9	15.4	-7.7	13	15.4	69.2	15.4	0.0	13	15.4	84.6	0.0	15.4
非 製 造 業		60	20.0	66.7	13.3	6.7	60	21.7	60.0	18.3	3.4	60	16.7	73.3	10.0	6.7
商 業		28	14.3	67.9	17.9	-3.6	28	17.9	64.3	17.9	0.0	28	21.4	64.3	14.3	7.1
建 設 業		20	15.0	75.0	10.0	5.0	20	20.0	65.0	15.0	5.0	20	0.0	95.0	5.0	-5.0
観光・サービス業		12	41.7	50.0	8.3	33.4	12	33.3	41.7	25.0	8.3	12	33.3	58.3	8.3	25.0

2023年4月の状況 (企業%) ●自社の業況 ●収益性

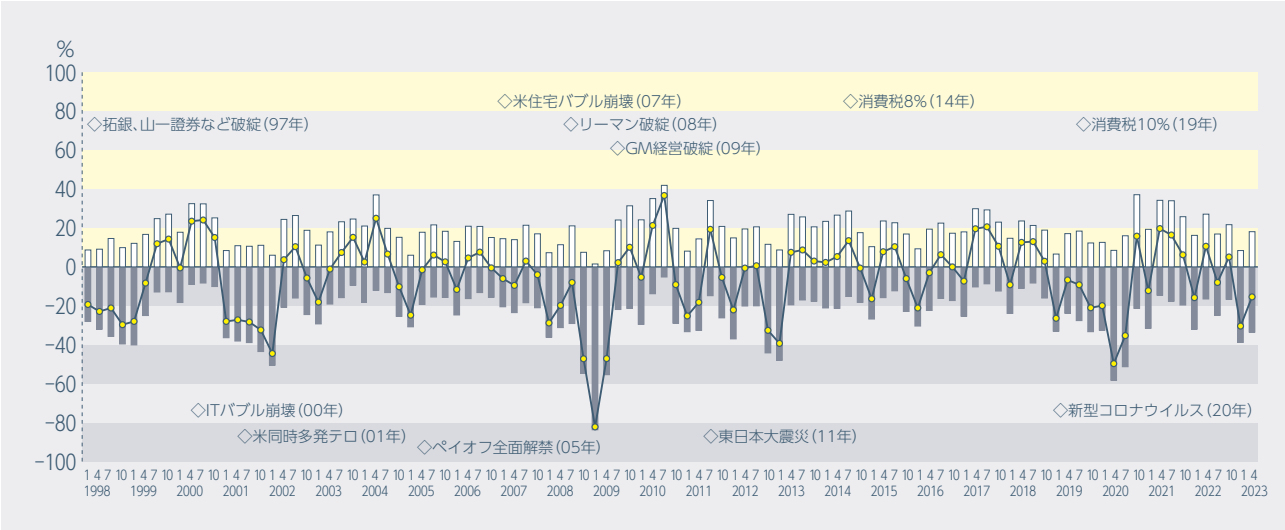
●自社の業況

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全 体		182	18.1	48.4	33.5	-15.4	182	17.6	40.7	41.8	-24.2	182	21.4	59.3	19.2	2.2
製 造 業		122	14.8	41.8	43.4	-28.6	122	17.2	29.5	53.3	-36.1	122	20.5	56.6	23.0	-2.5
規 模	1～29人	64	14.1	40.6	45.3	-31.2	64	15.6	35.9	48.4	-32.8	64	23.4	50.0	26.6	-3.2
	30～99人	44	18.2	40.9	40.9	-22.7	44	22.7	18.2	59.1	-36.4	44	18.2	61.4	20.5	-2.3
	100人～	14	7.1	50.0	42.9	-35.8	14	7.1	35.7	57.1	-50.0	14	14.3	71.4	14.3	0.0
中 分 類	金属製品 製造業	34	20.6	35.3	44.1	-23.5	34	17.6	26.5	55.9	-38.3	34	11.8	64.7	23.5	-11.7
	一般機械 製造業	31	12.9	38.7	48.4	-35.5	31	6.5	35.5	58.1	-51.6	31	16.1	58.1	25.8	-9.7
	電気機械器具 製造業	20	10.0	50.0	40.0	-30.0	20	25.0	30.0	45.0	-20.0	20	20.0	55.0	25.0	-5.0
	輸送用機械 器具製造業	11	9.1	54.5	36.4	-27.3	11	0.0	36.4	63.6	-63.6	11	18.2	63.6	18.2	0.0
	精密機械器具 製造業	13	0.0	53.8	46.2	-46.2	13	15.4	23.1	61.5	-46.1	13	30.8	46.2	23.1	7.7
非 製 造 業		60	25.0	61.7	13.3	11.7	60	18.3	63.3	18.3	0.0	60	23.3	65.0	11.7	11.6
商 業		28	28.6	53.6	17.9	10.7	28	21.4	64.3	14.3	7.1	28	32.1	53.6	14.3	17.8
建 設 業		20	15.0	75.0	10.0	5.0	20	15.0	65.0	20.0	-5.0	20	10.0	80.0	10.0	0.0
観光・サービス業		12	33.3	58.3	8.3	25.0	12	16.7	58.3	25.0	-8.3	12	25.0	66.7	8.3	16.7

●収益性

		3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
		回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI	回答 企業数	好転	横這	悪化	DI
全 体		182	12.1	55.5	32.4	-20.3	182	13.2	44.5	42.3	-29.1	182	15.9	59.9	24.2	-8.3
製 造 業		122	9.8	50.0	40.2	-30.4	122	10.7	39.3	50.0	-39.3	122	14.8	55.7	29.5	-14.7
規 模	1～29人	64	12.5	46.9	40.6	-28.1	64	10.9	43.8	45.3	-34.4	64	15.6	48.4	35.9	-20.3
	30～99人	44	6.8	56.8	36.4	-29.6	44	11.4	36.4	52.3	-40.9	44	15.9	63.6	20.5	-4.6
	100人～	14	7.1	42.9	50.0	-42.9	14	7.1	28.6	64.3	-57.2	14	7.1	64.3	28.6	-21.5
中 分 類	金属製品 製造業	34	8.8	44.1	47.1	-38.3	34	11.8	29.4	58.8	-47.0	34	8.8	64.7	26.5	-17.7
	一般機械 製造業	31	6.5	45.2	48.4	-41.9	31	6.5	41.9	51.6	-45.1	31	9.7	54.8	35.5	-25.8
	電気機械器具 製造業	20	10.0	65.0	25.0	-15.0	20	10.0	50.0	40.0	-30.0	20	10.0	55.0	35.0	-25.0
	輸送用機械 器具製造業	11	0.0	63.6	36.4	-36.4	11	0.0	45.5	54.5	-54.5	11	18.2	54.5	27.3	-9.1
	精密機械器具 製造業	60	16.7	66.7	16.7	0.0	60	18.3	55.0	26.7	-8.4	60	18.3	68.3	13.3	5.0
非 製 造 業		28	25.0	60.7	14.3	10.7	28	17.9	60.7	21.4	-3.5	28	17.9	64.3	17.9	0.0
商 業		20	5.0	70.0	25.0	-20.0	20	15.0	55.0	30.0	-15.0	20	5.0	85.0	10.0	-5.0
建 設 業		12	16.7	75.0	8.3	8.4	12	25.0	41.7	33.3	-8.3	12	41.7	50.0	8.3	33.4
観光・サービス業		14	14.3	57.1	28.6	-14.3	14	21.4	50.0	28.6	-7.2	14	28.6	57.1	14.3	14.3

回答全社：業況判断DIの推移 (当金庫の調査開始から)



調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ①調査期間 2023年4月。
- ②調査内容 「2023年4月時点」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
- ③調査方法 DI調査および約130社のヒアリング調査。
- ④DI回答数 182企業。
- ⑤回答率 72.8%

	製造業	商 業	建 設 業	観光・サービス業	合 計
依 頼 数	160	40	30	20	250
回 答 数	122	28	20	12	182

景気回復に明るさ

株式会社小宮コンサルタンツ CEO
小宮 一慶 氏



日本経済に少し明るさが見えてきました。ふたつ大きな理由があります。ひとつはコロナの影響が和らぎ、日本人のみならずインバウンド観光客が急増していることです。もう一つの理由は賃上げが大企業中心に進みつつあることです。

コロナが5類に移行しましたが、多くの規制が消えつつあります。私も、コロナ前のように出張が増えてきました。毎週のように新幹線に乗っていますが、新幹線では外国人観光客が格段に増えていることが分かります。一車両の半分くらいが外国人の場合もあります。また、東京の繁華街や地下鉄では、大きなスーツケースを引っ張っている外国人の姿をよく見かけるようになりました。インバウンド旅行客が戻ってきています。統計的には、ピークの2019年（年間で3188万人）のペースにはまだ達しておらず、今年の3月では7割程度ということですが、今後も増加が予想されます。

それだけではありません。日本人の旅行客も多くなりました。全国旅行支援が一部では続いていることもありますが、コロナにより制限されていた旅行を再開する人たちも増えているのでしょう。

また、インフレがピークで4.1%まで達したことがあり、大企業を中心に賃上げが進みつつあります。インフレ率（現状3%程度）をカバーするかは微妙なところですが、大企業中心ではあるものの、賃上げがある程度進むことは、景気にはプラスに働くことは言うまでもありません。

景気指標でもそのことが確認できます。表の街角景気の数字をご覧ください。街角景気は景気ウォッチャー調査とも言われることがありますが、経済の最前線にいて景気に敏感な人たちに内閣府が各地で調査をしているものです。景気に敏感な人たちとは、タクシー運転手、小売店の店頭にいる人、ホテルのフロントマンなどです。中小企業の経営者にも調査しているとのこと。

	街角景気 (季節調整値)	日銀短観業況判断 「良い%」－「悪い%」	
		大企業 製造業	大企業 非製造業
2022年4月	49.5		
5月	53.0	9	13
6月	52.1		(6月調査)
7月	43.9		
8月	45.5	8	14
9月	48.9		(9月調査)
10月	50.8		
11月	49.4	7	19
12月	48.7		(12月調査)
2023年1月	48.5		
2月	52.0	1	20
3月	53.3		(3月調査)
(出所)	内閣府	日銀	

それらの人たちに景気が良くなっているかどうかを調査し、数字が「50」を超えていると「良くなっている」と答えた人のほうが多く、下回っていると「悪くなっている」というふうに答えた人が多いということです。

この数字を見ると、昨年には年の途中でコロナの影響もあり、大きく落ち込んでいた時期もありましたが、秋には持ち直し、その後少し低下していましたが、今年の2月、3月には50を超えるところに戻っています。経済の最前線にいる人たちには景気回復の足音が聞こえているのです。

表には日銀短観の数字も出ています。3月調査が最新の数字なので、少し時間が経っていることを少し注意して見ておかなければなりませんが、大企業製造業の数字が落ちているのが分かります。この調査は、景気の状態が「良い」と答えた人のパーセンテージから「悪い」と答えたパーセンテージを引いているものです。

大企業製造業は、もともとそれほど良くなかった数字が悪化しています。昨年の半ばからの数字が出ていますが、半導体不足や中国のゼロコロナ政策やその後の混乱の影響が出ています。ただ、表にはありませんが、鉱工業生産指数の動きを見ると、年初1月に90.7で底を打って、3月には95.7まで戻しており、徐々にですが回復がうかがわれます。

一方、非製造業では、数値の改善が顕著です。日銀短観では「良い」、「悪い」の他に中間的な回答も認めているため、3月調査の「20」という数字はかなり良い数字です。

4月以降は中国からの団体客の増加も予想されます。昨年の150円程度までの円安ではありませんが、現状の135円前後の水準も以前に比べれば、訪日外国人から見れば「バーゲン」で、今後も訪日客は増えると考えられます。

中小企業を含めた賃上げの状況は、正確な統計が出るまでにはしばらく時間がかかりそうですが、インフレもピークを過ぎ、昨年はピークで前年比49%まで上昇した輸入物価が直近で10%を切っていることなどを考えれば、インフレももうしばらくすればかなり収まるものと考えられます。賃上げと総合して考えれば、インフレ鎮静化は景気には良い影響を与えられれます。

まだまだ予断を許さないところはありますが、しばらくは景気は回復傾向だと思います。



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号
TEL 0266-23-4567 FAX 0266-24-4055
<http://www.suwashinkin.co.jp/>

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は
諏訪信用金庫 総務部へ
電話 0266-23-4567

本誌の電子版はこちらから▶

